

BAB IV

KESIMPULAN

Setelah penulis menganalisis pemakaian *fukushi amari* dalam bahasa Jepang berdasarkan struktur kalimat dan maknanya, penulis dapat menarik kesimpulan sebagai jawaban dari tujuan penelitian, yaitu :

1. Penggunaan *fukushi amari* dalam kalimat bahasa Jepang, sebagai berikut :

- *Amari* merupakan salah satu *fukushi* jenis 程度の副詞 yang memiliki makna dan memerikan batasan terhadap tingkat atau derajat.
- Pemakaian *amari* dalam kalimat, merupakan kata keterangan yang menerangkan predikat *adjektiva*, *verba*, atau *adverbia* lainnya.
- *Fukushi amari* dapat diikuti oleh bentuk negatif dan dapat diikuti oleh bentuk positif.

2. *Amari* memiliki beberapa makna, yaitu :

- *Amari* yang diikuti oleh bentuk negatif (あまり～ない) , memiliki arti tidak begitu, memerikan batasan atau tingkat yang tidak berlebihan.
- *Amari* yang diikuti oleh bentuk positif (あまり) , memiliki arti terlalu , memerikan batasan yang tinggi dan berlebihan.
- *Amari* yang diikuti oleh bentuk positif (あまりに (も) ・ あまり (にも)) , memiliki arti terlalu, yang lebih menerangkan makna yang sangat berlebihan, memerikan batasan yang tinggi dan berlebihan.

- *Amari* yang diikuti oleh bentuk positif (あまりの + 名詞 (に・で)) memiliki arti “terlalu”, memerlukan keterangan pada kata benda dan menunjukkan batasan yang melekat pada kata yang termasuk kata benda. *Fukushi* あまりの～memerikan batasan yang menunjukkan hal yang ekstrem.
- *Amari* yang diikuti oleh bentuk positif (名詞 + のあまり (に)) . *Fukushi* ～のあまり memiliki arti “terlalu”, melekat pada kata benda yang menunjukkan suatu keadaan, perasaan, atau emosi yang sangat berlebihan. kemudian tujuannya adalah menyatakan hasil yang tidak baik (negatif).

文における副詞の「あまり」の用法分析

「統語論・意味論からの一考察」

フィヴィカルチイカ

0342008



マラナタキリスト教大学

文学部

日本文学科

バンドン

2008

文における副詞の「あまり」の用法分析

「統語論・意味論からの一考察」

序論

日本語にはさまざまは副詞があるが、その一つに「あまり」というものがある。「あまり」は文脈によって意味が異なるのである。

本論文は「あまり」がいかなる意味を待ち、またどのような文脈の場合にその意味が異なるかを分析するものである。

本論

分析を進める前に、まず副詞が何であるかを見てみることにする。鈴木 (1978) によると、副詞は動詞の示す働きや状態の質、様子、量、程度及び形容詞の示す性質の程度を表して文の中で修飾語として働く品詞であるという。

つまり、副詞はあるものごとの状態についての説明及び与えるものである。「あまり」という副詞は程度を表すものであるが、その用法には否定の表現を伴うものと肯定の表現を伴うものがある。

以下に否定の表現及び肯定の「あまり」現を伴う「あまり」の用例を挙げて分析してみる。

A. 否定の表現を伴うもの

- － ①弟はあまり背が高くないので、女の子にもてない。
- － ②けさはあまりご飯を食べなかった。

上の二つの文から見て、「あまり」は述語を修飾し、①では、程度が高くないことを表し、②で量が多くないこと表しているのである。

B. 肯定の表現を伴うもの

肯定の表現を伴うものには、あまり「あんまり」、あまりに（も）・あまり（にも）、あまりの＋名詞（に・で）、及び名詞＋のあまり（に）がある。

以下にそれぞれの例を挙げる。

a) あまり「あんまり」

- － 1) あまりボリュームを上げると隣の人が文句を言いに来るから気をつけてね。

上の文を見ると、「あまり」は限度を越え、過度は程度を表すことがわかる。

b) あまりに（も）・あまり（二も）

- － 2) ここのカレーあまりにまずくて、とても食べられたのではない。

上の文の「あまりに」は常識を超越に過激な程度を表しているのである。この「あまりに」は述語を野「まずい（形容詞）を修飾している。

c) あまりの+名詞（に・で）

－ 3) 今年の夏は**あまりの暑さ**に飲食もなくなってしまった。

－ 4) **あまりの問題**の複雑さに、解決策を考える気力もわからない。

上の文の「あまりの」は名詞あるいは名詞化したものを修飾している。意味的には前の「あまり」及び「あまりにも」と同様で、程度を超越するということである。

d) 名詞+のあまり（に）

－ 5) 憧れた人から手紙が来て、うれしさの**あまり**、泣いてしまった。

－ 6) 忙しさの**あまり**、友達に電話をしなければならぬのをすっかり忘れていた。

上の文の「のあまり（に）」を見てみると。これも程度を超越する意味を表すことがわかる。統語的に待っていており。その感情、状態の過度を表しているのである。

結論

「あまり」という副詞の用法を分析してみた結果、次の結論を引き出すことができる。

- 「あまり」は、程度の副詞に入る。
- 「あまり」は否定の表現及び肯定の表現を伴う
- 「あまり」は後ろに来る語を修飾する。
- 文における「あまり」は四つのパターンがある。
 - あまり（あんまり）＋述語
 - あまりに（も）・あまり（にも）
 - あまりの＋名詞（名詞化したもの）
 - 名詞化した形容詞＋あまり（に）
- 否定の表現を伴う場合、程度が高くないことを表す。
- 肯定の表現を伴う場合、程度が超越していることを表す。